2025年度　宇都宮大学多文化公共圏フォーラム　第２回

原発事故の教訓と未来のエネルギー政策
～ドイツの経験から学ぶ～

2025年5月23日（金）

時間：10：20～11：50
場所：ラーニングコモンズ3
参加：先着順・事前申込み制（5月20日締切）
使用言語：英語・日本語（話題提供は英語で行います）

開会の挨拶　**髙橋若菜**　多文化公共圏センター長

講演「原発事故の教訓と未来のエネルギー政策」

話題提供者

マルティン・カストラネク（ハインリッヒ・ベル財団）
ガブリエラ・シュルツ
ギルバート・ズィークマンヨーケン
ワークショップ
質疑応答・コメント

コメンテーター

ラース・ストルペイト（多文化公共圏センター研究員　産業環境経済学博士）
閉会の挨拶　**清水奈名子**　国際学科長

2011年に発生した東電福島原発事故から14年が経過しました。この事故を受けてドイツでは脱原発政策へと方針転換が見られましたが、日本では近年原発活用が推進されています。ドイツでは、チェルノブイリ、そして福島の原発事故からいかなる教訓を学び、現在のエネルギー政策に活かしているのか、専門家と共に考えます。

主催：宇都宮大学国際学部附属多文化公共圏センター
福島原発震災に関する研究フォーラム＆UU3Sプロジェクト
協力：FOE Japan　（理事　吉田明子）
申込先：清水研究室（nshimizu@cc.utsunomiya-u.ac.jp）

▶講師の紹介

マルティン・カストラネクさん

Martin Kastranek

元社会福祉士、ハインリヒ・ベル財団シュレスヴィヒホルシュタイン州支部設立メンバー、「アクションウィーク」運営メンバー

ガブリエラ・シュルツェさん

Gabriela Shultze

太陽光発電企業勤務、「アクションウィーク」活動や難民支援活動等に携わる

ギルバート・ズィークマンヨーケンさん

Gilbert Sieckmann-Joucken

エネルギー政策を専門とする政治学者、地方自治体の副議長、緑の党地域会派代表

「アクションウィーク」は、ドイツ・シュレスヴィヒ＝ホルシュタイン州のハインリッヒ・ベル財団が毎年開催する国際的なイベントです。チェルノブイリと福島の原子力事故を契機とし、エネルギー、記憶の継承、SDGsなど、現代の環境的・人道的課題に焦点を当てています。特に高校生を対象に、証言者や専門家との対話を通じて、過去の出来事を学び、未来について考える機会を提供しています。